

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

瀬戸内共同火力株式会社 福山共同発電所

(2) 事業所の所在地

広島県福山市鋼管町1番地

(3) 業種

3311 発電所

(4) 事業所位置図

別紙-1のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成19年度（2007年度）を基準年度とし、令和3年度（2021年度）から令和7年度（2025年度）までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

1 基本的な考え方

当社は、環境の保全を経営の重要課題と位置付け、環境に配慮した事業活動に努め、環境への負荷の低減を推進することにより、持続可能な社会づくりに貢献します。

特に、今日の環境問題の中でも、とりわけ重要視されている地球温暖化防止については、自らの事業活動による温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。

2 方針

(1) 環境管理の推進

- ・ 環境負荷の管理と低減
- ・ 環境教育・環境異常想定訓練の推進
- ・ 環境リスク評価活動の実施

(2) 地球温暖化対策と省エネルギーの推進

- ・ CO₂排出量の削減
- ・ 省エネ法による効率管理

(3) 循環型社会の推進

- ・ 廃棄物の3R推進
- ・ 産業廃棄物の適正な処理

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成19年度	令和2年度
二酸化炭素	215,803	196,115

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成19年度	令和2年度
二酸化炭素	0	0

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成19年度	令和2年度
メタン	0	0
一酸化二窒素	6	11
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)	0	0

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成19年度)	削減目標		目標年度 (令和7年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				
非エネルギー起源CO ₂				
メタン				
一酸化二窒素				
その他 温室効果ガス				
温室効果ガス 実排出量総計				
温室効果ガス みなし排出量		-		
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

所内電力量(MWh)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位数(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成19年度)		原単位 削減目標	目標年度 (令和7年度)			
	排出量 (a)	原単位数 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	215,803	276,670	0.78	1.3	186,868	244,227	0.77
非エネルギー起源CO ₂	0	276,670	0.00	0.0	0	244,227	0.00
メタン	0	276,670	0.00	0.0	0	244,227	0.000
一酸化二窒素	6	276,670	0.00	0.0	15	244,227	0.00
その他 温室効果ガス	0	276,670	0.00	0.0	0	244,227	0.00
総排出量	215,809	276,670	0.78	1.3	186,883	244,227	0.77
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	0.2464	12.5	-	-	0.2156
目標設定の考え方	・エネルギー消費原単位を年率2.5%削減 ※エネルギー消費原単位の原単位算定は送電電力量(MWh)を使用 ・一酸化二窒素は新2号ガスタービン設置に伴い増加						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	送電端熱効率の向上	—	<ul style="list-style-type: none"> ・定期事業者検査工期の短縮 ・所内電力の削減 ・効率向上対策工事の実施
2	重油使用量の削減	・ H19年度 56,000kL → R7年度 55,000kL	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保炎用重油量の削減 ・ 製鉄所保安電力の低減
3	電気使用量の削減	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な室内温度湿度の管理 ・ 省エネタイプエアコンの導入 ・ LED照明への変更 ・ 不要時消灯の励行
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	廃棄物排出量の削減	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分別資源化の徹底 ・ リサイクル品の全量回収
2	用紙の削減	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ OA活用によるペーパーレス化の促進 ・ 裏面使用、両面印刷の促進
3	その他	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再生紙、再生品の使用の拡大 ・ エコマーク、グリーンマーク商品の活用

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制

別紙-2参照

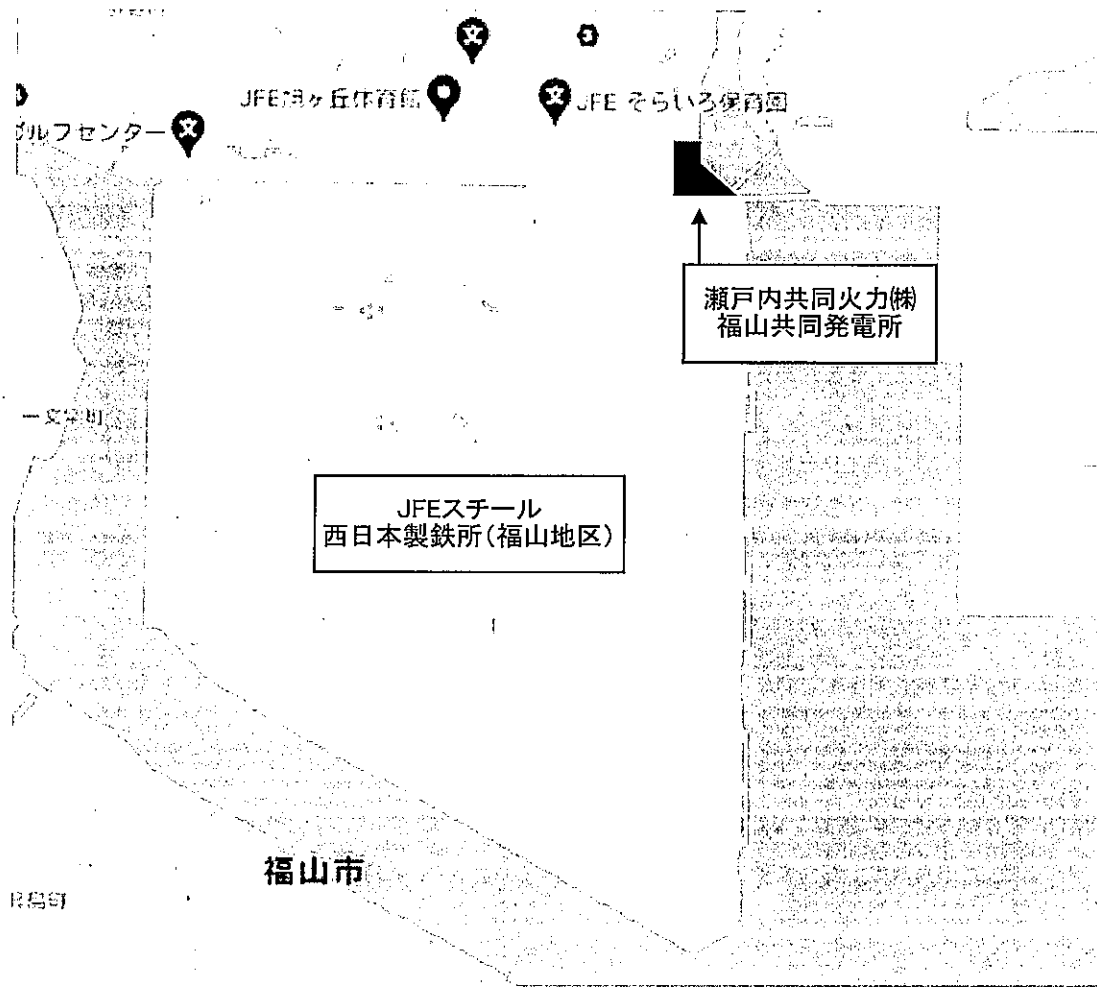
(2) 実施状況の点検・評価

技術担当を中心として、毎年温室効果ガス削減計画の取り組み状況の把握・点検および問題点の検討をし、環境・エネルギー管理委員会において定期的に評価・見直し等を行い、継続的な向上を図る。

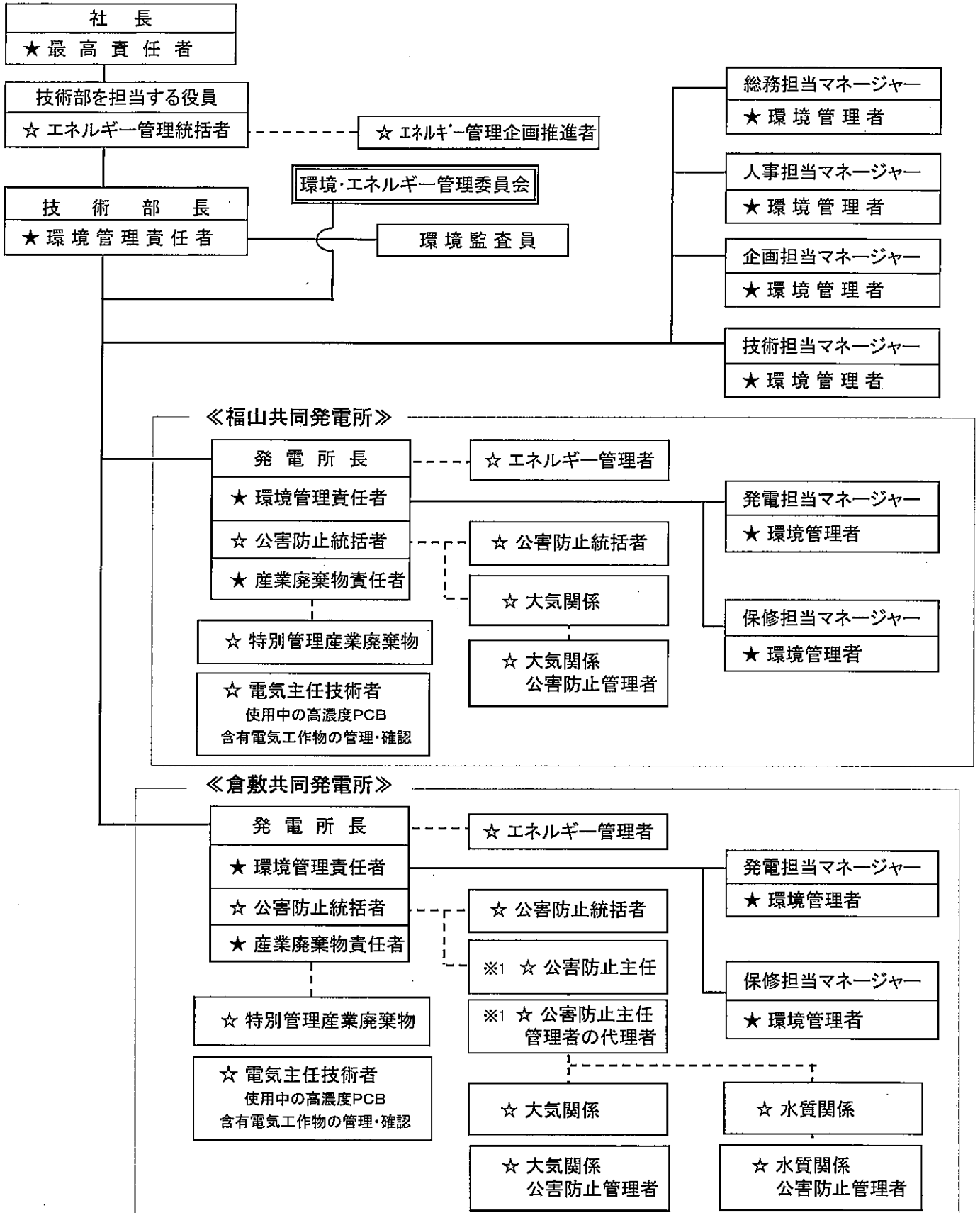
(3) 計画書等の公表

当社への備付けによる閲覧とする。

瀬戸内共同火力株式会社 福山共同発電所位置図



環境管理組織体制



〈指示・連絡および報告系統〉

..... 法定管理業務 ——— 環境管理業務

☆印 法定管理者(官庁届出) ★印 内規責任者(社内規定)

※1 大気関係公害防止管理者と水質関係公害防止管理者の両者間の指揮・調整を要しない場合や両公害防止管理者を同一人が兼任している場合など、当該工場からのばい煙並びに汚水及び廃液が確実に処理できる場合には、公害防止主任管理者の選任を免除することができる。